

はじめに

私が還暦を迎えた 1993 年は、この列島社会が厳しい冷害と凶作に見舞われ、ことに北国では、稲作の収量が、平年作の 3 分の 1 ほどにまで落ち込むという、悲惨な状況が日々に報じられていた。この深刻な冷害・凶作情報は、私に大きな衝撃を与えた。

これまで私は、日本中世史を学ぶなかで、大きな旱魃や風水害による凶作や飢饉や疫病が、中世社会にも、いくども起きていたことを知っていながら、それらを、偶発的で個別的な小事件と見なすだけで、それらを日本中世全体のおかれた、厳しい気象状況の中に位置付けることには、まったく無関心であったからである。

この深刻な反省をもとに、私は還暦を機に、晩年の小さな宿題として、中世社会の風水害や旱魃、虫損、それらを原因とするとみられる、凶作や飢饉や疫病の情報を、中世の記録や古文書の中から収集する作業にとりかかった。

なお、災害といえば、地震や噴火を無視することはできないが、これらについては、すでに先学によって貴重な集大成が行われているので、私は災害史料の収集を、上記のような気象関連の災害に限ることとした。ただ、直接に気象災害に注目するだけでなく、それを示唆する、百姓の損免要求など、間接的な情報にも目を向けることにした。

史料の検索は限りがなく、私の狭い知見の範囲を超える、大きな広がりがある。従って本書は、中世気象災害の総括というには、ほど遠い。本書を「日本中世気象災害史年表稿」と限定したのは、そのためである。作業を始めてから 15 年にわたるので、ここで一区切りしようと、ふと思い立ったに過ぎない。

日本中世をどの範囲とするかは、むづかしい問題であるが、ここでは、かりに 10 世紀初めから、17 世紀を少し越えるあたりまでを対象とした。

いま自然環境の悪化が、地球規模で深刻な課題となっているが、日本中世史の研究も、この重大な課題を避けて通ることはできないであろう。そうした直面する歴史的な課題に、本書が少しでも寄与することができれば、まことに幸いである。なお、この年表稿をもとにした私の作品に『飢餓と戦争の戦国を行く』（朝日選書、2001 年）がある。

本書の刊行に当たっては、畏友峰岸純夫氏に出版先のご推薦をいただき、高志書院の濱久年氏には、困難な刊行の労をとっていただいた。あつくお礼を申しあげたい。

なお、校正にあたっては、多くの若手研究者の手あつちご尽力をいただいた。ここにお名前を銘記して、謝意を表したい(石原比伊呂・板倉則衣・大塚紀弘・大藪海・杉谷崇之・鈴木翼・浜口誠至・松本貴智・宮崎賢一・柳沢誠・綿貫宏樹)。

凡 例

1. この年表は、主として、10世紀初めから、17世紀を少し越える時期にわたる、700年余りの、日本中世社会の生活と環境に大きな影響もたらした、風損(大風)、水損(霖雨、洪水)、旱損(旱魃)、虫損(蝗害)、凶作、飢饉、疫病に関する、中世の史料情報14,000件余りを、ほぼ原文のまま、年月日順に抄録したものである。なお、作成に約15年ほどを要したため、表記にはやや不統一もみられるが、できるだけ統一に努めた。
2. 西暦との対照は、中世では、ほんらいユリウス暦で行うべきであるが、現代の生活の季節と気象の実感に合わせるため、あえてグレゴリオ暦によった。なお、月日不詳の項目は、かりにグレゴリオ暦の一月一日の項に収めた。日付未詳の項目は、かりにグレゴリオ暦の該当月の一日の項に収めた。
3. 「地域」の欄には、災害に関する史料の発信元(京都、大和、鎌倉など)や、史料の記載上の特徴、たとえば、「天下大飢饉」「天下一同ハシカ病」などとあれば「天下」、
「世間疫疾」「世上不熟」などとあれば「世間」、
「諸国洪水」とか複数の国に分散している記事は「諸国」、ある程度の範囲が推定できるものは「畿内」、
「近畿」、
「関東」などと表記して、災害の地域とその広がりの特徴を知る手がかりとした。
また、改元事情には、災害との関係が深い例が多いので、地域欄に「改元」の項目を網羅的に併記した。
4. 「原出典」には、記録、古文書のほか、つとめて年代記類も収めた。ただ、中世にかかる年代記類には、史料批判の余地があり、研究も余り進んでいないので、利用に当たっては、できるだけ同時期の関連する記録や古文書の記事と対比しながら、慎重に活用していただきたい。
5. 割注は表記の都合により< >で括ることとした。また文字の不明なものや翻刻しにくいものは[]で表示した。
6. 「閏月」にはウ欄を設け、閏月は1、それ以外は0で表記した。
7. 記録、古文書類のほとんどは、翻刻刊行された史料集によったが、「日本災異志」「日本震災凶饉考」など、多くの先学の研究成果に依拠したところも少なくない。そのため「原出典」欄のほかに、あえて「掲載書誌」欄を設けて、その旨(孫引きであること)を明記した。災害記事の利用に当たっては、「掲載書誌」欄にもご留意いただきたい。
8. この災害史年表は、先に行われた佐々木潤之介氏、外園豊基氏をそれぞれ代表とする、2つの科研費による研究に、あいついで参加する過程で、作成に多くの協力を得て充実に努めることができた(佐々木科研「日本中世後期・近世初期における飢饉と戦争の研究」2000年、外園科研「日本中世における民衆の戦争と平和」2003年)。本書は、これら研究成果報告書に、そのつど収録した中世の気象災害情報(「日本中世における日損・水損・風損・虫損・飢饉・疫病に関する情報」)を増補訂正したものである。関係各位に心からお礼を申し上げます。また、本書の作表には、外園氏のお世話で、鵜飼政志氏のご尽力をいただいた。